

日本 GP : バルタスは 7 位、 カネットもポイント獲得

ファンティック・レーシング・リノ＝ソネゴはチームランキングトップを維持し、インドネシアへ向かう。



MotoGP 第 17 戦日本 GP が、9 月 26 日から 28 日にかけて栃木県のモビリティリゾートもてぎで行われ、Moto2 クラスに参戦するファンティック・レーシング・リノ＝ソネゴのバリー＝バルタスは 7 位、アロン＝カネットは 15 位で、それぞれポイントを獲得した。

ファンティック・レーシング・リノ＝ソネゴは、日本 GP に新たなデザインのカウルで臨んだ。FANTIC のアイコン的なスクランブラー「Caballero」、そしてグループ傘下のボローニャ拠点のエンジンメーカー「Motori Minarelli」の名がそのカウルに加わったのである。

土曜日、予選 1 (Q1) から挑んだバルタスは、2 番手タイムを記録して予選 2 (Q2) に進出した。バルタスは Q2 でもさらにタイムを縮め、1 分 48 秒 246 をマーク。Q2 で 7 番手となって、決勝レースを 3 列目から迎えることになった。一方のカネットは初日プラクティスでの転倒が響き、Q1 で 9 番手に沈んだ。

今年の日本 GP は、Moto2 クラスにおいてタイムが大幅に向上した。これは、リアタイヤに昨年はなかったスーパーソフト (SCX) がアロケーションされたためである。初日午後のセッションであるプラクティスの時点で、トップのジェイク＝ディクソン (エルフ・マーク VDS レーシングチーム) が 1 分 48 秒 679 を記録している。これまでのオールタイム・ラップ・レコードである 1 分 49 秒 711 を、1 秒以上も上回るタイムだった。

もちろん、Q2 ではそのタイムがさらに更新され、ポールポジションを獲得したマヌエル・ゴンザレス (リキモリ・ダイナボルト・インタクト GP) は 1 分 48 秒を切って、1 分 47 秒 925 を叩き出した。バルタスも Q1 のタイムを更新して 1 分 48 秒 246 をマークしたが、全体的なタイムの上がり幅は激しく、7 番手となったのである。とはいえ、トップからわずか 0.3 秒差だった。

日曜日の決勝レースでは、バルタスが 3 列目 7 番手スタートから力強い走りを見せ、レース序盤はトップ集団に食らいついた。バルタスは好ペースを刻んだものの、そこからさらに上位に浮上するチャンスを見出すことができず、7 位でチェッカーを受けた。

一方、カネットは 22 番グリッドという厳しいポジションからスタートした。なお、予選順位としては Q1 で 9 番手、総合 23 番手だったが、前のライダーがグリッド降格のペナルティを受けたため、カネットは 22 番手からのスタートとなった。

カネットは好スタートを決めて 18 番手に浮上。その後も堅実かつ安定した走り続け、最終的にポイント圏内の 15 位でフィニッシュした。Moto2 クラスのチャンピオンシップとしては、カネットが依然としてランキング 3 番手を維持し、バルタスがランキング 4 番手に続いている。



また、チームランキングにおいては、ファンティック・レーシング・リノ＝ソネゴがトップを守っている。ランキング 2 番手のチームとの差は 29 ポイントである。

チームは連戦となるインドネシア GP に向かい、引き続き、上位争いを目指す。第 18 戦インドネシア GP は、10 月 3 日から 5 日にかけて、インドネシアのプルタミナ・マンダリカ・インターナショナル・サーキットで行われる。

バリー＝バルタス：

3 列目からスタートしてトップグループに加われたことはポジティブだった。今日は最後まで戦うペースが足りなかったけれど、大事なポイントを持ち帰ることができた。次戦に向けて準備を続けていくつもりだ。チームは素晴らしい仕事をしてくれたし、インドネシアでも全力で臨む準備はできているよ。

アロン＝カネット：

簡単な週末ではなかった。改善の余地はまだあるけれど、チームの働きで、インドネシアでは前進できると信じている。高いモチベーションを維持し、全力を尽くすよ。

ロベルト＝ロカテリ（チームマネージャー）：

バルタスにとってはポジティブなレースでした。前方のグリッドからスタートし、ペースをうまくマネジメントできました。ただ、最後に仕掛けるための一押しが足りませんでした。金曜の走り出しから強さを維持し、レース序盤から戦えるよう準備する必要があるでしょうね。

カネットにとっては厳しいレースでした。Moto2 では、後方からのスタートとなると非常に難しいのです。レース序盤からある程度のポジションにいないければ、好結果は望めません。我々の目標は準備を整え、チャレンジに応えることです。特に昨年、アロンがマンダリカで圧倒的な走りを見せたことを考えればなおさらです。

■Moto2 クラス チャンピオンシップ ランキング

	ライダー	チーム	バイク	ポイント数	トップとの差
1	M.ゴンザレス	LIQUI MOLY Dynavolt Intact GP	KALEX	238	
2	D.モレイラ	Italtrans Racing Team	KALEX	204	34
3	A.カネット	Fantic Racing Lino Sonego	KALEX	189	49
4	B.バルタス	Fantic Racing Lino Sonego	KALEX	182	56

■ライダープロフィール

アロン=カネット

1999 年 9 月 30 日生まれのスเปน人。2016 年にロードレース世界選手権 Moto3 クラスデビューを果たし、2019 年にはランキング 2 位を獲得。2020 年、Moto2 クラスにステップアップ。2024 年にファンティック・レーシングに移籍し、ポルトガル GP で初優勝を飾った。このシーズンは小椋藍に次ぐランキング 2 位を獲得。2025 年、チャンピオン獲得を目指す。

目下、最大の目標は「世界チャンピオンになること」。幼少期は父親からカートを与えられたが、「バイクのほうがいい」と言って乗り始めた。その当時からゼッケン「44」を使用している。

バリー=バルタス

2004 年 5 月 3 日生まれのベルギー人。2020 年に Moto3 クラスデビュー。2022 年に Moto2 クラスにステップアップした。初表彰台は 2024 年のカタール GP。この年、オートレース宇部レーシング・チームから鈴鹿 8 耐にも参戦している。2025 年、ファンティック・レーシングに移籍し、表彰台の常連になりつつある。なお、9 月 13 日に 2026 年もファンティック・レーシングから Moto2 クラスに参戦することが発表された。

バルタスの父親がバリー=シーン（伝説的イギリス人 WGP チャンピオン）の大ファンで、そのためにバルタスは「バリー」と名付けられた。ゼッケンの「7」もこれに由来するもの。

